

北アルプス

**表銀座縦走（中退）**

08年5月2～5日

L 後藤 西村（記）

燕から北穂まで縦走しようということで1日夜、新宿発あずさ35号で出発。松本駅で仮眠する。2日穂高駅からタクシーで中房温泉に行く。燕まで行くという2人パーティーと同乗したのでバスと同じ金額で行くことができた。幸先良いスタートだ。

ゆっくり支度を調えた後、7:45中房温泉を出発する。第3ベンチでアイゼンを装着。登山者は多くトレスはバッチリだが、体調が思わしくなくザックが重い。先を歩く後藤さんもいつもよりかなり遅い。北アルプス3大急登と言われる合戦尾根をガスの中とぼとぼと登る。

13:17燕山荘着。なんと5時間半もかかってしまった。予定していた燕岳登頂もやめにして先を急ごうと思ったが、2人とも燕は登ったことがないのでせっかくだから行こうということで頂上まで往復した。可愛らしい4羽の雷鳥がこちらを警戒することもなく近くまで来て歓迎してくれた。思いの外疲れたので山荘から30分ほど歩いた標高2635mの大きな鞍部でテントを張ることにした。山荘で仕入れたビールがうまい。

三日は朝から快晴。この天気なら水俣乗越まで楽勝と思いながら大天井岳目指して進む。右手には槍から水晶岳に連なる白銀の大パノラマが広がる。槍には田中パーティーが、双六岳には菊地パーティーが山スキーで入る予定だ。縦走もいいがスキーも羨ましい。

雪はしまって歩きやすいが時々ぼっと股まで落ちこれがなかなか疲れる。トレスはうっすらと付く程度で登山者の殆どは燕までのようだ。思っていたほど足は進まず大天井岳までなんと5時間を費やす。大天井から水俣乗越に伸びる喜作新道はトレスは全くなく、この調子で進むと今日はいいところビックリ平までと予想する。燕から一緒だった槍を目指す単独の若者も予想外だと言いながら喜作新道に進むか考え込んでいた。彼は結局計画を断念し常念へ向かった。さて我々はどうするか、二人で地図とにらめっこする。結局、計画変更で常念岳、蝶ヶ岳経由で上高地に下りることにする。残念だが雪の状態や体調を考えると変更もやむなしというところだ。

決まったからには常念小屋でビールを飲むことだけを考えて、渋る後藤さんの尻をたたきながら先を急ぐ。トレスはバッチリだが時々ぼっと足が落ち抜くのに一苦労する。不愉快きわまりない。大天井岳から一緒のアマ

チュアカメラマンの青年は、これを称して「坪足地獄だ」と言っていた。なかなか面白い青年で「岳人」に投稿するのだと言って我々の写真を撮っていた。載る可能性は限りなく0に近い。

頑張った甲斐あって 4:30 小屋に到着。ご褒美にビールをたんと飲む。小屋にはテントが十数張り。小屋の中も人だらけで賑やかだ。スキーヤーの姿も散見できる。夕暮れの中に屹立する槍が、絵はがきのように美しい。隣では例のアマチュアがテントから顔だけ出してカメラを構えている。日本中の青年が、彼のようにこの感動を求めて、重い三脚とカメラを担いで雪山に登る気力を持っているならば、日本はどんなに良い国になるだろうかと、とつてもじじ臭いことを考えてしまった。

4日も朝から快晴。常念岳頂上に向かって標高差 400 ㍎の急登から始まる。私が山を始めた年に初めて登った本格的な山がこの常念岳だ。友人と頂上に立った 13 年前の日のことが昨日のこのように思い出される。今日もあの日と同じように雲一つない青空と北アルプスの山々が我々を迎えてくれた。後藤さんは写真を撮りまくっている。

さあ次の目標は、蝶ヶ岳ヒュッテのビールだ。常念から蝶に伸びるアップダウンの尾根道を頑張る。後ろも前も登山者だらけでまるで夏のような。人の多さにやや閉口する。予定より早く着いたので

頑張って目標を徳沢園でのビールに変更、長堀尾根を下ることにする。長堀尾根は本当に長い。こんなことなら蝶でビールを買い込んで途中でテントにするべきだったなどと考えているうちに徳沢園に 4:50 に着く。テントの数にビックリする。後藤さんはここの青い芝生の上でテントを張るのが夢だったそう。残念ながら今年は雪が多く、芝生はまだ茶色かった。ビールの他に日本酒も買い込んで縦走の労をねぎらう。またリベンジしよう。

#### <コースタイム>

- 2日 中房温泉 7:45 ~ 燕山荘 13:17 ~  
(頂上往復) 標高 2635 ㍎ テン場  
15:30
- 3日 テン場 6:00 ~ 大天井岳 11:00  
~ 常念小屋 16:30
- 4日 常念小屋 7:00 ~ 蝶ヶ岳ヒュッテ  
13:00 ~ 徳沢園 16:50